

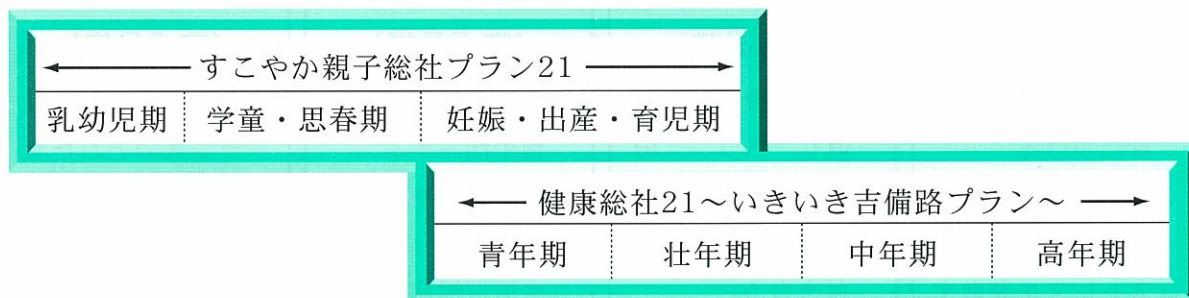
計画策定の趣旨

近年、急速な高齢化が進んでおり、介護を必要とする人や長い間の生活習慣の偏りを要因とした生活習慣病（悪性新生物、脳血管疾患、心疾患、糖尿病等）が増加しています。こうした状況の中で、国は平成12年度にすべての人が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするために、「健康日本21」を策定、岡山県は平成13年度に「健康おかやま21」を策定し、健康づくり運動を推進しています。

これまで総社市では、老人保健事業をはじめとする保健事業を実施してきましたが、生活習慣病が死亡原因の上位をしめており、医療や介護を必要とする人の割合が多くなっています。行政からの一方的な知識や技術の提供だけでは、市民の健康づくりをすすめる上で限界があることが分かってきました。

市民全体の健康度を上げるためには、すべての市民が、まず自ら健康問題に気づき、自分ができることは何かを考え、実行することが大切です。また、個人の努力だけでなく、健康を支援する環境づくりをすすめるために、地域・家族・職域・関係団体・行政等ができることは何かを共に考え、健康づくりに取り組む必要があります。

平成15年5月には、法的基盤となる健康増進法が施行されたこともあり、総社市の健康増進計画として、みんなが健やかに、安心して生活することができる健康福祉のまちづくりの実現をめざした「健康総社21～いきいき吉備路プラン～」を策定しました。



生涯を通じたプラン

総社市では、平成13年度に10年間の第2次総社市母子保健計画「すこやか親子総社プラン21」を策定し、子育て支援と乳幼児期からよい生活習慣を身につけるために3つのライフステージに大別して取り組みを推進しているところです。この計画は、①栄養・食生活 ②運動 ③休養・心の健康 ④たばこ ⑤アルコール ⑥歯科保健 ⑦保健・医療 ⑧事故 ⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツの領域に分けて、取り組みの現状、長期目標、中期目標、今後必要な取り組みについて示しています。

「健康総社21～いきいき吉備路プラン～」においても「すこやか親子総社プラン21」と同じ領域に分けて、4つのライフステージに大別し、現状、目標、今後必要な取り組み等について示しました。市民一人ひとりが生活習慣を見直し、健康づくりに具体的に取り組めるよう計画立案しています。